

機械器具 (01) 手術台及び治療台
管理医療機器 空気流動ベッド JMDN:35921000

特定保守管理医療機器 * **エアフローティングシステム
LIFE-ISLAND7**

【禁忌・禁止】

1. 指定オプション以外の取り付けの禁止[専用機器以外は仕様異なる為適合しないおそれがある]

【形状・構造及び原理等】



1. 構成

- 1) 本体
- 2) 微細固体粒子(医療用セラミックビーズ)
- 3) フィルターシート
- 4) ハンドスイッチ
- 5) ホールドダウンラバー
- 6) 昇降用ハンドスイッチ (オプション)

2. 電源定格

- 1) 電 源:単相 AC100V
- 2) 定格周波数 :50/60Hz
- 3) 定格消費電流:13.0A

3. 作動原理

ブロワーにより、エアークリーナーを介して 5 μ 以上の塵埃が完全に濾過された空気がラジエターに送り込まれます。ブロワーにより圧縮加熱された空気は、ラジエターで規定値まで下げられ、ビーズ槽内にある温度センサーと制御ユニットにより制御され、エアチャンバーに入ります。この温度制御された空気は、拡散板を通してビーズ槽に入り、ビーズを持ち上げます。その際ビーズは流動し、流体の特性を有します。空気は、フィルターシートを通り、外部に排出されますが、このフィルターシートは空気のみを通過させ、ビーズは通しません。

【使用目的又は効果】

1. 褥創問題の解決を目的とし、次の様な時に使用する。
 - 1) デクビタス潰瘍の危険防止のため。
 - 2) 全く動けなくなった患者の向きを変える必要があるとき。
 - 3) 瞬時的に患者を固定することが必要であるとき。

【使用方法等】

1. 設置方法

- 1) 本装置を平らで十分な強度がある場所に設置する。
- 2) キャスターを全てロックする。
- 3) ビーズ 25kg \times 17 缶を投入する。(患者の体重により増減)

2. 使用前の準備

- 1) 電源コードのプラグを AC100V アース付き 3P コンセントに差し込む。
- 2) 信号ケーブル、強電ケーブル、中継ダクトホースを接続する。
- 3) 動力部のメインブレーカーを“ON”にする。
- 4) 運転スイッチを押してビーズを流動させる。
- 5) ビーズ流動レベル左右の“強”“弱”スイッチを操作し、希望する流動に設定する。
- 6) ビーズの流動にムラの無いことを確認する。
- 7) 再度運転スイッチを押してビーズの流動を停止させる。
- 8) フィルターシートとホールドダウンラバーを取り付ける。
- 9) 再度ビーズを流動させ、操作パネルでビーズ設定温度を 40 $^{\circ}$ C 度にし、24 時間以上の空運転を行う。
- 10) 24 時間経過後、ビーズ設定温度を使用する温度に再設定する。

3. 操作方法

各機能、操作方法については取扱説明書をご参照下さい。

4. 使用后

- 1) 使用後は、ビーズ及びビーズに混入した患者の体液や滲出物等、乾燥・除菌させるために、温度設定を 40 $^{\circ}$ C に設定し、十分な空運転を行うこと。
- 2) フィルターシートの交換及び洗濯を行うこと。フィルターシートを外したときに、ビーズの清掃と、ビーズ量の確認を行うこと。
- 3) 本装置を次回使用するまでの期間が短い(2~3 日)場合は、そのまま空運転を続けて次の使用に備えておくこと。
- 4) 長期間使用しない場合は、空運転終了後、電源プラグをコンセントから抜き、付属のビニールシートで覆い保管すること。
- 5) キャスターのロックを必ず行うこと。

【使用上の注意】

取扱説明書に詳細が明記されていますので、ご参照下さい。

1. 移動、運搬の注意

- 1) 移動の際は強電ケーブル、信号ケーブル、中継ダクトホースを取り外し、動力部とビーズ槽部を分離させて移動させてください。
- 2) 装置を持ち上げる必要が生じた場合は、装置の下に横木を通し、その横木を持って、下部のフレーム部から持ち上げること。(横木を通すときは、装置下面の突起物に注意すること。)装置を持ち上げる際は、横木を持つ人の他に、装置を支える人員を十分に配置すること。[転倒やエア漏れが発生する恐れがあります]
- 3) ビーズ槽のタンクは樹脂製です。破損防止のためタンクに衝撃を与えないでください。
- 4) 運搬の際は、フランジ部に大きな力を掛けないこと。[エア漏れが発生したり、正確な体重測定ができなくなるおそれがあります]
- 5) 本装置のビーズ温度は、室温と同じ温度以下にコントロールすることはできません。室温と同じ温度以下で サポートする必要が有る患者には、本装置を使用しないで下さい。

取扱説明書を必ずご参照ください。

2. 設置の注意

- 1) 屋内に設置すること。
- 2) 水や油のかからない場所に設置すること。
- 3) 温度・湿度がコントロールでき、直射日光が当たらず、ほこり・塩分・イオウ分等を含んだ空気により、悪影響の生じる恐れのない場所に設置すること。
- 4) 火気やストーブなどの暖房器具の近くには設置しないこと。
- 5) 平らで十分な強度がある場所に設置すること。
また、振動や衝撃を加えないようにすること。
- 6) 化学薬品の保管場所や、ガスの発生する場所に設置しないこと。
空気の吸入、排気を動力部の側面で行っているため、装置の下部や周囲に、空気の流れを妨げるような物を置かないこと。
- 7) 電源プラグは 3P アース付コンセントに許容電流に留意して、確実に接続すること。
- 8) コード類を踏んだり、物を載せたり折り曲げたりしないこと。[断線や接触不良の原因となります]
- 9) ビーズが投入された状態では装置を持ち上げないこと。[エアリー漏れが発生したり、正確な体重測定ができなくなるおそれがあります]
- 10) ビニールシートが汚れたときは、中性洗剤を含ませた布で拭くこと。

3. 使用前の注意

- 1) 電源コードの上には絶対にものを載せないこと。
- 2) 電源コード、ハンドスイッチコードのプラグが所定の位置に確実に接続されていることを確認すること。
- 3) 機器が正確に作動することを確認すること。
- 4) ビーズのレベルを確認すること。
- 5) フィルターシート、ホールドダウンラバーが確実に装着されていることを確認すること。[しわがあったり、ホールドダウンラバーの装着が不完全な場合、ビーズが漏れることがあります]

4. 使用時の注意

- 1) ベッドの上で立ちあがったり大きく体を動かしたりする患者にはご使用しないこと。[ベッドから落ちてケガをするおそれがあります]
- 2) 患者を乗り降りさせる場合は、必ず流動を停止した状態で行うこと。また、装置の上に立ち上がったり歩いたりしないこと。[タンク底部の拡散板を破損したり、フィルターシートを傷めたりするおそれがあります]
- 3) 患者が装置の操作を行わないよう注意すること。
- 4) 連続流動と間欠流動の切り換えは、必ず動作を停止させてから行うこと。
- 5) フィルターシートにピン等を使用しないこと。[ピンホールによりビーズがフィルターシート上に漏れ出てくる場合があります]
- 6) ピンホール等により、ビーズが漏れ出した場合は、オートクレープテープ等で一時的に補修しておき、シートの交換時に洗濯した後、アイロンテープで完全に修繕すること。
- 7) フィルターシートは装置の一部ですので、フィルターシート上に付属品のディスプレイシートを敷いて使用すること。
患者の体位を変えるときは、フィルターシート上に敷いたディスプレイシートを操作すること。
- 8) 装置の上では絶対に多量の液体を使用しないこと[ビーズが湿気を含み、流動が悪化したり拡散板を傷める原因になります]

5. 使用後の注意

- 1) 電源を切るときは、運転スイッチを OFF にし、流動を停止させてからメインブレーカーを OFF にすること。
- 2) 付属品、コード類などは、洗浄した後、点検整理してまとめておくこと。
- 3) 機器の清掃は揮発性の溶剤、酸性の薬品は絶対に使用しないこと。

- 4) 装置は、次回の使用に支障がないように清浄にしておくこと。
- 5) 次回の使用まで期間があると思われるときは、付属のビニールシートで装置を覆い、ショックコードでビニールシートを固定しておくこと。

6. その他の注意

- 1) 電源プラグは、濡れた手で AC コンセントに接続しないこと。
[感電の原因となります]
- 2) 保守点検の際は必ず電源プラグを外して行うこと。エアークリーナー、プレフィルター、熱交換器、ブレーカー、サーキットプロテクタの保守点検のためにサイドパネルを外すときは、電撃の危険がありますので、十分注意すること。また、必要以上のパネル・カバー類を外すことはしないこと。
- 3) 保守点検は保守点検要員が行うこと。
- 4) 本装置の移動時以外は常にキャスターのロックを行うこと。
- 5) プレフィルター、エアークリーナー、クーリングファンフィルターが汚れたり、詰まったりした場合、下限温度及び上限温度が高くなります。
- 6) 塩素系の洗剤は、フィルターシートを傷めますので使用しないこと。不適切な方法で洗濯すると、フィルターシートが傷むので病院内のランドリーには出さず、洗濯からアイロンかけまで、責任者を決めて任せるようにすること。
- 7) ビーズが床にこぼれた場合、足元がたいへん滑りやすくなり危険ですので、湿らせた雑巾やモップ等で綺麗に拭き取ること。
- 8) ビーズが湿気を含み、流動状態の悪いまま運転を続けず、ブロワーモーターに負担がかかり、サーキットブレーカーが働き、アラームが鳴り、装置の作動が停止する事があります。
- 9) 熱交換器の清掃の際にはフィンを折り曲げないよう注意すること。
[温度上昇の原因となります]
- 10) 装置内に関わる対策の実施は、必ず保守点検要員が行うこと。
装置カバーの開け閉めの際には、指を挟まないよう注意すること。
指定された箇所以外のネジを外したり、触れたりしないこと。
[感電のおそれがあります]

【保管方法及び有効期間等】

- 1) 装置を保管する場合、付属のビニールシートで装置を覆いショックコードでビニールシートを固定すること。
- 2) 直射日光及び高温・高湿を避け、粉塵腐食性ガス等の影響がない屋内で保管すること。
- 3) 水分がかからない、乾燥した状態で保管すること。

【保守・点検に係る事項】

1. 保守点検の詳細は取扱説明書を参照のこと。
 - 1) しばらく使用しなかった機器を再使用するときは、使用前に必ず機器が正常かつ安全に作動するかを確認すること。
 - 2) 本品は特定保守管理医療機器に該当致します。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】



〒959-0261 新潟県燕市吉田鴻巣 96
Tel: 0256-92-3582

取扱説明書を必ずご参照ください。